

1. 科目名（単位数）	統計解析特殊講義（4 単位）	3. 科目番号	SSMP7204
2. 授業担当教員	金 貞任		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし		
7. 講義概要	この授業では、社会福祉研究分野の研究活動において重要な位置を占めている社会調査、特に定量的な調査データの分析を主題とする。その際には、諸課題に関する実証的な研究に関する文献を取り上げ、どのような分析手法が用いられているかを検討し、各自の博士論文ではどのような分析手法が有効であるかを発見し、応用可能であるかを探る。そのためには、まず、データの基本的な考え方について確認する。次に、重回帰分析、プロビット分析、共分散構造分析、因子分析など多変量解析を用いた分析手法について検討する。講義の中では、実際のデータや分析例を紹介しつつ、必要に応じて統計量の計算手順も紹介していく。		
8. 学習目標	1. 多変量解析法の多様な分析手法について学習、応用ができるように努める。 2. 博士論文を作成する際、分析結果を読み取ることができるように努める。 3. 各自がデータを分析する際、従属変数に基づいた分析方法を発見する。 4. 得られた統計データをどのように解釈・活用するかについて習得する。		
9. アサインメント（宿題）及びレポート課題	シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマを参照。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 三輪 哲・林雄亮『SPSS による応用多変量解析』オーム社、2015 授業の際に適宜紹介する。 【参考書】 数理社会学会監修『社会の見方、測り方-計量社会学会への招待』勁草書房、2008 稲葉照英ほか『日本の家族』東京大学出版会、2016 大村平『多変量解析のはなし-複雑さから本質を探る』Best selected Business Books、日科技連出版社 2006 Henry EB and David C (eds.), 2004. 『Rethinking Social Inquiry: Diverse Tools, Shared Standards』, 小塩 真司『SPSS と Amos による心理・調査データ解析—因子分析・共分散構造分析まで』東京図書、2004 豊田秀樹、前田忠彦、柳井晴夫『原因をさぐる統計学—共分散構造分析入門』講談社、1992 高橋信『すぐ読める生存時間解析—カプラン・マイヤー法／ロジスティック回帰分析／コックスの比例ハザードモデルが、よく分かる！』東京図書、2007 渡辺秀樹・稲葉昭英・嶋崎尚子(編)『現代家族の構造と変容—全国家族調査 [NFRJ98] による計量分析—』東京大学出版会、2004 その他の参考文献は、授業の際に適宜紹介する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ・レジュメ作成と発表 ・分析方法の応用程度 ○評定の方法 レジュメ作成と発表 60% 学期末レポート 40%		
12. 受講生へのメッセージ	1. 授業で取り上げた分析方法について、必ず復習をすること。 2. 博士論文のデータについて、自分独自の思考枠組みを模索すること。 3. 比較分析はどのようにするかを吟味する。		
13. オフィスアワー	水曜日：12：00—13：30 木曜日：12：00—13：30		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1～8. テーマ	シラバス、仮説作成、質問票検討、面接調査、文献の精読		
【学習の目標】	1. 仮説を作成する。		
【学習の内容】	2. 質問項目と選択肢を作成する。 1. 授業のガイダンス 2. 仮説とは何かについて学習する。 3. 良い質問内容と悪い質問内容について学習する。 4. 網羅的・相互排他的選択肢の作成の方法を学習する。 5. 面接調査の実施の長所と短所を経験する。		
【キーワード】	仮説、従属変数、独立変数、良い質問、選択肢、面接調査		
9～14. テーマ	クロス集計表、カイ二乗検定、残差分析、平均値の差の検定、分散分析、文献の精読		
【学習の目標】	データが正規分布であるかどうか検討する。		
【学習の内容】	1. クロス集計表：「二重クロス集計表」「確率と帰無仮説」「 χ^2 乗検定」「残差分析」について検討する。 2. 平均値の差の検定：「分散分析」について検討する。 3. 分散分析を用いた実証論文の精読：分散分析を使った実証論文を読み、実際の論文において分散分析（ANOVA モデル）がどのように使われているのかを把握する。		
【キーワード】	二重クロス、平均値、分散分析、帰無仮説、 χ^2 検定		

15～17.テーマ	相関係数と偏相関係数、文献の精読
【学習の目標】	因果関係について検討する。
【学習の内容】	1. 二つの連続変数の間の関連の検討方法を学ぶ。関連性の形を確認するための散布図と、直線的関連の強さを示すピアソンの積率相関係数について、その原理と検定方法について検討する。 2. 重回帰分析：「3 変量回帰モデル」「独立変数が 3 つ以上の重回帰分析」「ダミー変数を用いた回帰分析」について学習する。 3. 回帰分析における予測の精度を表す決定係数の考え方について検討する。 4. 重回帰分析を用いた実証論文の精読:重回帰分析を用いた実証論文を読み、実際の論文において重回帰分析がどのように応用されているかを把握する。
【キーワード】	決定係数、F 検定、ダミー変数、標準化回帰係数、自由度調整済み決定係数、残差分析、多重共線性
18～22.テーマ	重回帰分析、ロジスティック回帰分析、文献の精読
【学習の目標】	1. 重回帰分析について検討する。 2. ニ項ロジスティック回帰分析と多項ロジスティック回帰分析について検討する。
【学習の内容】	1. 重回帰分析について把握する。 2. 重回帰モデルが適切であるか、回帰診断の方法について検討する。 3. ロジスティック回帰分析：ニ項ロジスティック回帰分析と多項ロジスティック回帰分析について検討する。 4. ロジスティック回帰分析を用いた実証論文の精読：ロジスティック回帰分析を用いた実証論文を読み、実際の論文においてロジスティック回帰分析がどのように使われているのかを把握する。
【キーワード】	重回帰分析、ロジスティック回帰分析、オッズ、ロジット、最尤推定法
23～24.テーマ	交互作用効果、文献の精読
【学習の目標】	回帰分析における交互作用効果について検討する。
【学習の内容】	1. 交互作用効果とは何かについて学習する。 2. 交互作用効果の考え方、交互作用のパターンを理解する。 3. 交互作用項を用いた分析を試みる。
【キーワード】	交互作用、交互作用効果、交互作用パターン
25～28.テーマ	尺度の信頼性と妥当性、探索的因子分析
【学習の目標】	1. 尺度の信頼性・妥当性とは何かについて理解する。 2. 尺度の信頼性・妥当性の必要性について学習する。 3. 尺度の信頼性・妥当性の分析方法を身につける。
【学習の内容】	1. 尺度の信頼性・妥当性に関する論文を講読する。 2. 尺度の信頼性・妥当性の分析方法について実習する。 3. SPSS を使った確証的因子分析の方法を実習する 4. AMOS を使った確証的因子分析を実習する。
【キーワード】	信頼性、妥当性、確証的因子分析
29～30.テーマ	量的データの分析方法の応用、レポート作成と提出
【学習の目標】	量的データの分析方法に基づき、レポートを作成し、レポートを提出する。
【学習の内容】	1. 量的データの分析の手順に基づき、分析方法を確認する。 2. 研究目的に基づき、レポートを作成する 3. レポートの質を高めるためのスキルを身につける。
【キーワード】	量的データ、レポート、論文の質